

令和元年度第1回茨城県北ジオパーク運営委員について（メモ）

令和元年度第1回の運営委員会は、6月12日（水）（10:00～12:20 於：茨城大学水戸キャンパス事務局棟第3会議室）に行われました。その概略メモは以下のとおりです。

＜協議事項＞

（1）平成30年度事業報告及び事業会計収支計算報告について

平成30年度に行われたイベント等の事業及び決算につき報告。なお、幹事会等での申請に向けての見直し、検討状況及び今後の進め方については、次の協議事項で行うこととした。

（2）幹事会等での見直し状況及び今後の協議の進め方について

○見直し状況等報告について

1. 幹事会での検討に加え、市町村の首長懇談会、部長相当職会議、担当者会議等の会合の場を設定する必要が生じ、現在継続審議として至っている旨説明があった。（取消し前の活動では基本計画がない状況で実施してきた⇒根本となる理念、基本計画等を作成することが急務で、そのもとで活動する必要あり）
2. 理念、基本計画については、検討してきたものを記録に残す必要があり、幹事会等の承認等に基づくものではないが、未定稿の資料として学内委員、事務局で作成したものが配布された。
3. 今年度の申請見送りを決定したが、次期の申請の時期については、明示されていないため、次回の総会には総会の席上で検討することも含めて何らかの方向性を示しめすこととした。

○今後の活動について

1. 理念、基本計画の策定を最優先で行う。ジオパークを行うことの地域のメリットにつき共有認識を持つ（市町村へのヒアリング⇒事務にて、上記未定稿の資料に反映⇒正会員、IP等に意見伺い⇒協議会にて素案合意（7月中）⇒市民に意見を聞く（8～9月））
2. 運営体制の見直し
当初、部会を設置し運営委員会の活動を3部会に移行する方向で検討していたが、部会制が継続審議であるため、新体制移行のタイミングを検討する必要がある。
IPの組織化、協議会への正会員としての参入については、IPWGにおける組織化の規定などを含めた検討の最終報告を頂いた後に、事務局として再度正会員に諮る（継続審議）
3. 予算が厳しくなったことに鑑み、大学として今までのような財政負担ができないことを説明し、市町村に財政支援をお願いしている。協議会の予算の確保と連動し事務局の在り方を検討する必要がある。専門員の必要性については、認定申請では必須事項であるため、予算折衝協議の中で検討していく。
4. ジオストーリーについては、市町村、学内委員会委員、IP等への意見確認を経て事務局にて素案を作成する（7月中）。⇒8～9月市民から意見聴取
5. 拠点施設 引き続き検討

（3）今年度の活動の予算（案）につき報告。

＜報告事項＞

- ・ 今年度JGC現地調査地区 Mine 秋吉台（ユネスコ世界）、桜島・錦江湾（エリア拡大）、五島列島
- ・ JGN全国大会（大分）、関東ブロック大会（伊豆大島）への参加依頼

以上